

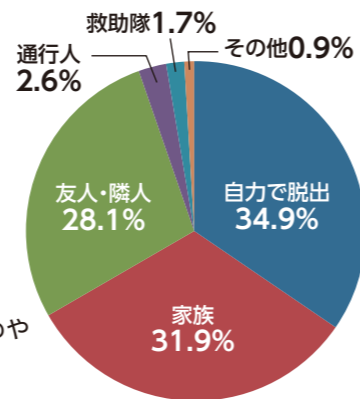
地域(自主防災組織)での防災活動

阪神・淡路大震災では、倒壊した建物から抜け出せた人のうち、自力による脱出と家族や友人・隣人による救出が全体の約9割を占めました。大規模な災害が発生したときは、行政による救助の手が届くまでに時間がかかります。

災害に対する予防・応急対応、復旧・復興には、住民の皆さんと行政機関等がそれぞれ役割を果たし、特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効率的な組み合わせが重要です。

いざというときは自分の身は自分で守るとともに、地域全体の助け合いによる防災活動が大切です。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等→



(出典:内閣府)

防災・減災対策の基本「自助・共助・公助」

自助「自分の身は自分で守る」

飲料水、食料等の備蓄、防災知識、技術の修得、危険回避のための避難など、普段から災害に対する準備をすすめましょう。

自助
自分の身は自分で守る

地域の防災力
災害に強いまち
災害時の被害を抑える

共助
地域や近隣の人、企業などが互いに協力し合う

共助「自分たちの地域は自分たちで守る」

自主防災組織の結成、活動の促進、訓練への参加、資機材の整備、災害から地域を守るための相互協力体制の推進を図りましょう。

公助
行政などによる救助、援助活動

公助「行政や防災関係機関による救助・援助等」

役場、消防署、警察、自衛隊などによる救助活動、避難所開設、救援物資の支給、各種の被災者支援などを行います。

自主防災組織の必要性

地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことを言います。特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

平常時の活動

- 防災研修会を開催(防災知識の普及)
- 防災点検(地域の危険箇所や要配慮者の把握等)
- 防災訓練(防災活動に必要な知識・技術の習得)
- 地域版防災マップ(マイマップ)作成
- 災害対応資機材の備蓄

災害時の活動

- 初期消火や救助・救護
- 避難誘導
- 避難所での給食・給水等の活動
- 要配慮者の避難支援
- 避難所の運営
- 情報収集と伝達(被災状況・避難者情報等)

避難所生活での心得

避難所で生活するのは大変不自由なことです。ストレスや疲労から体調を崩してしまうこともあります。マナーとルールを守り、みんなで支え合いましょう。

避難所での過ごし方

避難所は、快適な生活を送るために設計されたものではありません。緊急時に集団生活をするにあたり、どのように過ごせば精神的、肉体的にやり過ごせるか、あらかじめ考えておきましょう。

避難所についたら

- 避難者名簿で受け付けをします。
・避難者名簿は、長期になる場合の食料数の把握や、避難者の安否確認のために必要となります。
- 居場所・レイアウトを決めます
・車いすの通行路は確保します。
・視覚に障害のある人のために壁際を空けておきます。
・自主的な避難所運営にご協力をお願いします。

避難生活の注意点

- 共同生活
・定められたルールを守り、避難者もできる範囲で役割分担し助け合いの精神で過ごしましょう。
- 生活環境
・ごみは分別し、決められた場所に捨てましょう。
・トイレはきれいに使いましょう。
- 安全配慮
・避難所には不特定多数の人が出入りします。
・不審なことに気がついたら、管理者らに報告しましょう。
・共有スペースは火気厳禁です。
- 要配慮者への思いやり
・避難所では、災害で生活環境が変わり気が立っている人も多いため、実情です。
・ある程度の人数がある場合は、避難所の一角に専用スペースを設けるなどの工夫も必要です。
・お互いに思いやりを持って、生活しましょう。



要配慮者の支援について

地域のみなさんの協力が必要です。助け合いの心で…

高齢者、障害のある人、乳幼児その他の特に配慮を要する人は、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難する事が困難な場合があります。早めに避難ができるよう日ごろからコミュニケーションをとるなど、地域ぐるみでの取り組みが大切です。

高齢者・病人 あらかじめ支援者を決め、複数人での対応をし、車いすや担架を使う他、緊急時はおんぶして避難する。	目の不自由な人 まずは声をかけ、誘導するときは、腕を貸してゆっくりと歩く。できるだけ状況を言葉にして伝える。	耳の不自由な人 お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかける。伝わりにくい場合は、身ぶり、筆談により伝える。
知的障害のある人 ていねいに声かけをする。状況の理解が難しい場合は、手を引くなどして誘導する。	車いす利用者 階段では2人以上で援助し、上りは前向き、下りは後ろ向きで移動する。	早めの避難を 要配慮者は避難所までの移動に時間がかかるので、早めの避難が必要です。

車中泊・車での避難生活

※一般的な注意点であり、町として車中泊を推奨するものではありません。

- ① エコノミークラス症候群に注意!
・同じ姿勢のままではない。(体を伸ばしたり、ストレッチする)
・水分を十分にとること。
・必要以上にトイレを我慢しない。
※エコノミークラス症候群とは長時間同じ姿勢で座っていると、足の血管内に血液の塊ができ、それが肺に流れこむ症状。最悪の場合は死に至る。
- ② 排気ガス吸入による窒息死に注意!
・車中泊で必ず守っていただきたいこと、それは、エンジンを切ること!
・エンジンを切るとは、ガソリンの無駄使いの防止の他、排気ガスの吸入による窒息死の防止になります。
・またサイドブレーキを確実に引くことも忘れないようにしましょう。
- ③ 防寒対策も大切!
・冬の場合は、しっかりと防寒対策が必要です。
・エンジンを切ってしまうと、数十分もすればあっという間に車内は寒くなります。
・冬の車中泊はとことん冷え込みますので、重ね着、厚着は大切です。